

# 太平洋クロマグロ2019年生まれ 加入量モニタリング速報 (第1報 2019年11月)

国立研究開発法人  
水産研究・教育機構 国際水産資源研究所

- 太平洋側南部および九州西部<sup>※1</sup>で操業した曳縄モニタリング船<sup>※2</sup>について、夏季(7~8月)のCPUE(漁獲努力量あたり漁獲尾数)を南西諸島海域生まれの加入動向の指標として分析した。
- 2019年における夏季の曳縄モニタリング船CPUEは、2011~2018年平均の172%、前年の133%であった。
- 2019年の南西諸島海域生まれの加入量指標は、前年度より高く、2011年以降の調査期間において最も高い水準にある可能性が高い。

(※1) 太平洋側南部は、宮崎県、高知県、和歌山県、三重県。九州西部は、長崎県。

(※2) 2011年からモニタリングを開始。2019年は31隻のヨコワ曳縄漁船の操業データを使用している。

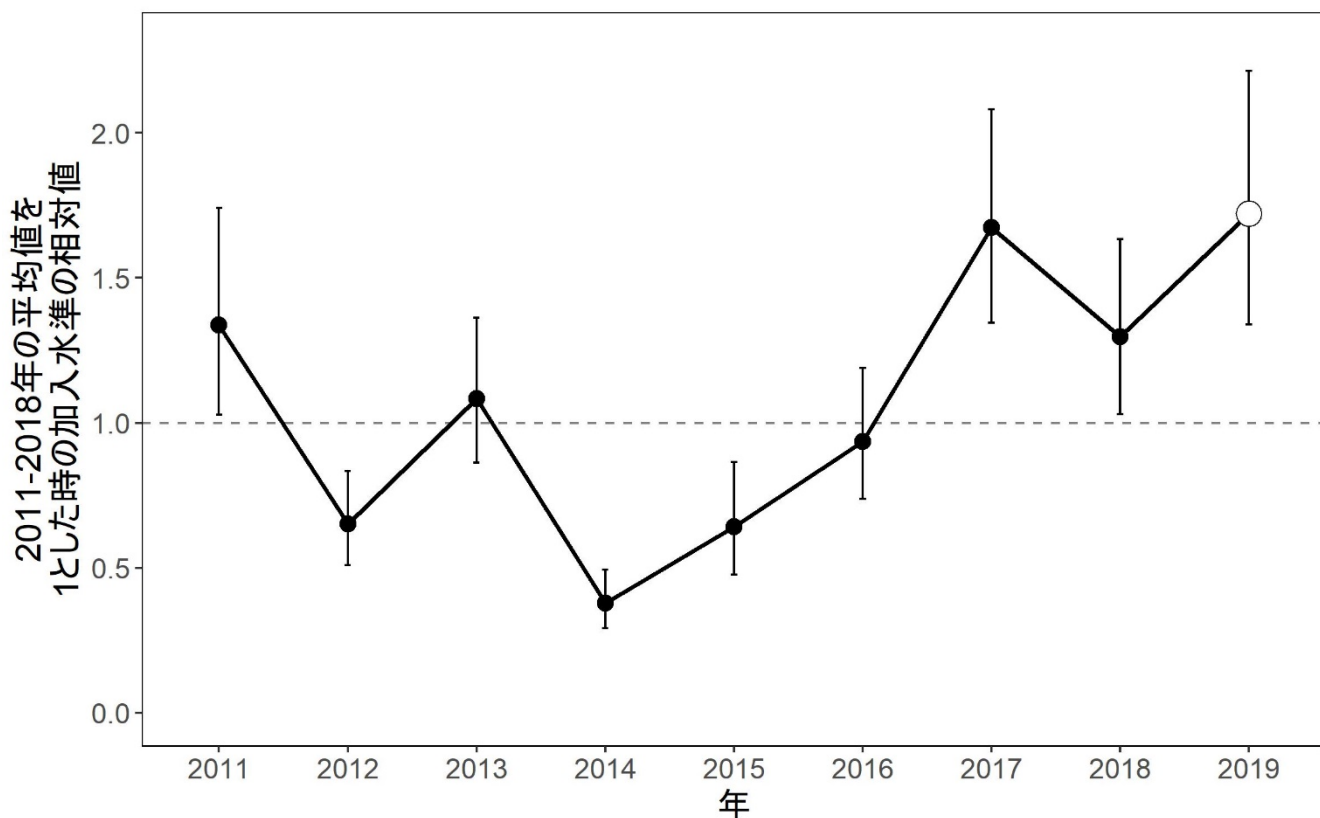


図. 2011~2019年の夏季の曳縄モニタリング船CPUEの相対値。  
図中の垂線は95%信頼区間。